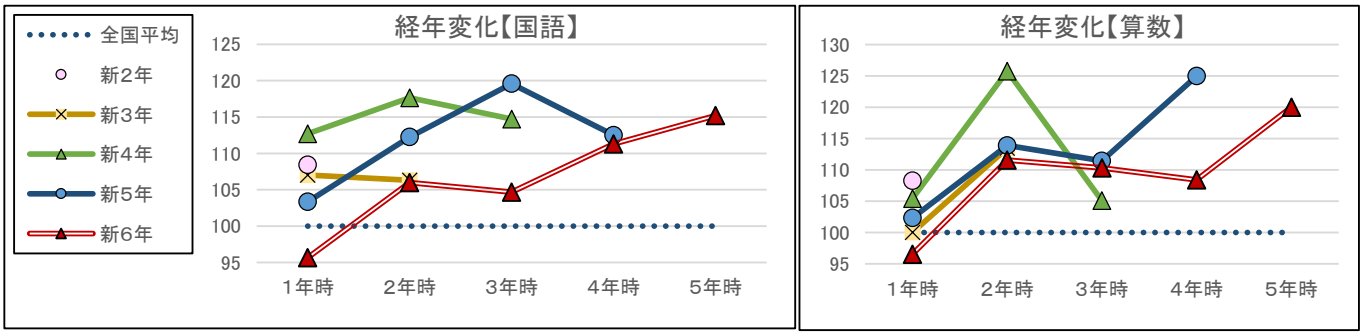


I 前年度の各種調査から見られる学校の状況

① 各学年の標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）

※釧路市では、3～6年生を対象に標準学力検査を実施していますが、本校では、独自に1、2年生においても実施しています。



② 学校の状況

- 生活習慣を整えるために協力体制を整えてくれる家庭が多い。
- 「友達や勉強の困っていることを、いろいろな先生に相談できるか」という学校評価の項目で「はい」と答えている児童の割合が低い。
- 全国学習状況調査の質問紙の項目において、「学習はよくわかる」と答えているが、「学習は好きか」との問いに「はい」と答えている児童の割合が低い。
- 標準学力検査では、全校的に国語、算数ともにほとんどの領域で全国平均を上回っていた。
- 【国語】①漢字の読み書きは全学年で概ね定着している。
②漢字辞典の使い方、主語・述語・修飾語、和語・漢語・外来語などの言葉に対する理解が十分ではない。
③共通点を捉えながら聞くことや、事柄の中心を捉えて自分で解答を考えるなど、活用の力が十分ではない。
- 【算数】①基礎的な学習内容はほぼ定着している。
②答えの求め方を説明することや、小数、分数といった抽象的な数的概念に関わる領域の力を高める必要がある。

II 今年度の学力向上に係る重点取組

① 学校全体での取組

授業づくり	学習集団づくり	学習習慣・環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して、「わかりやすい授業づくり」を目指す。特に、授業のねらいを児童とも共有し、「自分の考えを持つ」「考えを伝え合い、学び合う」機会を持つことに努める。 ・児童自身が何のためにこの学習活動をしているのか、振り返りながら取り組むことができるようにする。 ・自分の思いを言語化し、対話を通じて学びを深めていくことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まずやってみよう」と考える子が増えてきており、学びに向かう姿勢が前向きになってきている。今後もさらに高めていく。 ・話をしっかりと聞いたり、反応して対話したり、関わり合ったりしながら学び合う学級集団づくりを目指す。 ・「学習のきまり」の振り返りを毎月末に行うことで、集中して学習に取り組める環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習で「中央小検定」に取り組み、漢字の読み書き、計算、都道府県の理解など、基礎的な内容の定着を図る。 ・家庭学習のしかたを指導するとともに、自主学習ノートの取組の交流を通して、自主的な姿勢と学習方法の定着を目指す。 ・「生活リズムチェックシート」の取組を通して、家庭と連携しながら学習習慣やメディアに触れる時間等も含めた望ましい生活習慣の定着を目指す。

② 各学年の指導の重点

1年生の重点	4年生の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習習慣が身につくように、「学習のきまり」をきめ細かく指導する。 ・読み書き、計算の基本の定着を目指し、反復練習に取り組む。 	<p>【国語】色々な読み物に触れる機会を増やすことに加え、自分の考えや読み取ったことを決まった文字数でまとめる力を高める。</p> <p>【算数】計算の正確性を高める。また、式や答えの求め方を説明する力の向上を図る。</p>
2年生の重点	5年生の重点
<p>【国語】色々な読み物に触れる機会を増やし、内容を捉える力を高める。また、語や文の続き方に気を付けて文章を書く力を高める。</p> <p>【算数】文章問題や時刻についての理解を高める。</p>	<p>【国語】事柄の中心や話し合いの役割の良さを意識しながら学習できるようにする。また、漢字辞典の使い方をはじめ、言葉に対する理解を高める。</p> <p>【算数】小数の単位換算や折れ線グラフなど、日常生活と結び付けながら理解できるようにする。</p>
3年生の重点	6年生の重点
<p>【国語】読み物に触れる機会を増やし、内容を捉える力を高める。また、内容のまとまりに気を付けて文章を書くことができるようにする。</p> <p>【算数】計算の正確性を高める。また、自分の考えを説明する力の向上を図る。</p>	<p>【国語】読み物に触れる機会を増やし、叙述から読み取る力を高める。また、共通点や相違点を考えながら聞いたり、話したりする力を高める。</p> <p>【算数】文章問題と図を結び付けて考えることができるようにする。また、説明する力を高める。</p>